鞄の総合メーカー 大正5年創業

Mマスミ乾嚢

仕事の鞄は特に機能的で合理的。 使いやすさが凝縮されています。 ご依頼される方がどんな風に使いたいのか、 何を求めてオーダー依頼されたのか、 永〈愛用した後修理できるかなど、 創る時から使い込んだ未来を見て鞄を生み出します。 大正5年から培ってきた技術で心に残るカタチにしていきます。





Innovation事新を。

意外と思われるかもしれないが、革を縫える職人が枯渇している。 一言で革製品といっても必要な技術の幅が広いからだ。 新素材やこだわりの依頼になればなる程、基礎技術を 習得した上での匠の技と呼ばれる腕が必要とされる。

古い時代、道具や技術、素材すら不足してる中 職人は智恵を絞り、最高のモノを生み出し豊岡を鞄産地へと築いた。

クラシックモデルの復刻は、製造過程で先人の技を垣間見ることができる。 そこに新しい技術を加える。同じに見えて同じでなはい。 常に**革新**の思いをもって取り組む。 マスミ鞄嚢の志を今日もカタチにする。











復刻版: ダレス型ボストンバッグ

鞄職人の腕が視える鞄 『革のダレスボストンバッグ』

旧ダレスが生産されていた時代は芯材が厚く革が薄い仕様が主流でした。そのため少々重量感がありました。 復刻にあたり、芯材を薄く厚いヌメ革を使用。また0番という太いナイロン糸で耐久性を上げています。 錠前・手カン・底鋲などを真鍮鋳物で復刻しました。真鍮の特徴は重厚感漂う見た目の美しさです。 使い込むことで革に風合いが出てくるころ、真鍮の重厚感は歴史を物語るでしょう。









Quality



鞄の身と蓋を別々には作らない。1つの木枠をカットして鞄の原型を作る。開閉したとき隙間の無い、美しい口の鞄は強度的にも良くなる。

『木工部』を持ち続ける鞄製造会社

マスミ鞄嚢は、鞄製造会社としては類を見ない『木工部』を持ち続けている。

外注に出すのではなく、鞄職人に根本的な原型から鞄を創る技術を継承している。 いく為でもある。自ら手懸けることで品質は改良されていく。時代が見直され、 木製鞄を開発する企業や特殊用途の依頼が増えている。皆、ここでなら作れる のではないかと希望をもって問うてこられる。

【総合鞄メーカー】として、技術で応え続ける企業を目指している。

【鞄·特殊素材部門】

最初のかばん枠は、スマートケースに見られるブリキ枠であった。そのためかばんの重量はかなり重かった。

建築素材のベニヤ板。曲げて使う事のない素材を曲げて 鞄枠に出来ないかと豊岡で合板メーカーとの開発が始ま り、見事鞄の軽量化が実現した。1950 (昭和30) 年代の 話である。素材の改良だけでなく、新技術でベニヤが折れ るのを克服出来ないかと尽力したのが2代目植村美千男

V字カットによる直曲げを開発し、軽くて丈夫なアタッシェなどが生産可能となった。この技術は1982 (昭和57) 年頃に機械化され普及し、ベニヤ板など木枠が主流となった。





機械でV字カットを1本 入れる直曲げ仕様



V字カットを複数刻むと Rの角を作ることもでき、 美しい曲線となる



■特殊用途の鞄のご依頼

船ダンス(家具トランク)©ディスプレイトランク店舗ディスプレイ家具歌舞伎トランク車載用トランクウェディングトランクフットロッカーハットケース®特殊業務用フルオーダーOEM特殊素材加工OEM依頼他

■パターンオーダー等のご依頼

■OEM生産の幅広い対応

ドクターズバッグ (A) ダレス型ボストンバッグ フルオーダートランク 総手縫いトランク ドラマ撮影用鞄 ビリヤードキューケース (D) ハーモニカケース ブランドデザイン鞄OEM製作 他 大型大陸トランク® スーツトランク® ビジネストランク 蛇腹トランク チェスケース バニティーケース 宝飾ケース

■豊岡鞄認定 オリジナル鞄

豊岡の鞄製造メーカーが厳しい品質マニフェストを掲げ審査を実施。 国産仕上げが誇る斬新でひと味ちがう鞄をマスミ鞄嚢のオリジナル仕様で展開しております。 ※全国百貨店にて豊岡鞄フェア展開中







巻きアルミから4mでも5mでもアルミ板の加工が出来ることが依頼者のニーズに大きく貢献できている。

木工加工と自由な『アルミケース』

木工部を持ち続けているからこその強みが「アルミケース」にも見られる。

一般的なアルミケースは芯材のベニヤ板にエンボスアルミを貼り合わせものを組み立てる。コイル(巻物)のエンボスアルミ0.3m/mを所有しているため自社木工部でベニヤとアルミをカットし、それらを貼り合わせることができ、特大サイズなど幅広いサイズ展開の要望に対応できる。

また、アルミ板 $(1.2 \text{ m/m} \sim 2 \text{ m/m})$ のみで組み立てるアルミケースのカット、穴あけ等も木工部があるからこそできる。そうして自社木工部で作り上げた主体板は、使い勝手や強度にこだわったマスミ鞄嚢オリジナルパーツで組み立てられユーザーの大切なものを堅固にお守りすることができる。

【アルミケース部門】

本来アルミが持つ素材の特徴だけでは強度は補えない。そのためオリジナル補強パーツで細部にわたり補強を施す。この「補強」こそがアルミケース全体の品質を向上させる。

モノは使うにつれ傷みがでる。それを 直して使えるかどうかはこうした細部 にわたって手を抜かない仕上げにか かっている。

内装は鞄部門の「縫製部」が複雑なポケット、ベルトやマジックテープ加工を可能にする。収納物はウレタンカット、ウレタン抜き加工、ウレタンルーター加工等でしっかりと固定することも可能である。

形状強度を保つリベットの本数が多く、種類も 豊富。収容物の保護の為、突起の大きいリベッ トは使用しない。中の仕上がりにも配慮している。



キャスターには外装のL 形補強と同様に内側からも鉄板で強 固に補強。ハンドル等、荷重の掛かる部材の補強も丁寧に施し ているからこそ、修理出来るアルミケース。



■特殊用途の鞄のご依頼

(別註アルミケース)

トレーナーケース デジカメ収納ケース モニターケース スピーカーケース 音響画像機器収納ケース ディスプレイ基盤輸送ケース アルミコンテナ コンプレッサー搬送ケース⑥計測器収納・輸送用ケース①ダクト搬送ケースパネル搬送ケースモジュール輸送ケース検査機搬送ケース電飾パネル搬送ケース

海外援助隊医療品ケース® 医療器具収納・輸送用ケース® バルブサンプルケース 音響機器収納ケース 金型工具収納ケース 測定器収納ケース 通信機器収納ケース

(縫製ケース)

AED搬送用ケース® エアードライブケース® キャスター付バッグ 医療模型搬送バッグ

■アルミケースの定番商品

用途に合わせたタイプ選び、豊富なサイズ展開、常時在庫を揃えています。

・Eタイプ 書類などの保管と運搬に サイズは11種類・Sタイプ 貴重品などの安全な運搬に サイズは15種類

• Dタイプ 精密機器、重量物の運搬に サイズは6種類

☆内装はご要望により多彩に変更可能



Craftsmanship



変えてはならぬ事がある。

初代 植村賢輔が創業し100年を迎えようとしています。 柳行李から新素材ファイバーの時代に移り変わる以前から 鞄の未来を見据え【製造】にこだわってきました。

機械化が進んだ今でも、鞄の製造工程の大部分は人の手が必要とされています。 パーツも多く、見えない部分まで手間をかけた補強が必要で 製造技術は簡単には習得できません。

どんなに社会が変化し進んでも変えてはならないのは 人の手を育てること。モノづくりする職人の心を磨くこと。 使う人の御役に立つ鞄を作る、永い時代を越えて本当の答えが出ています。

復元·修

マスミ鞄嚢が依頼を頂き鞄職人が作った鞄の多くは、半世紀以上過ぎた今も現役で活躍している姿を目にすることがあります。 それは修理で何十年ぶりに鞄が戻ってくるからです。 直してまた使いたいと愛着を持って頂ける鞄であることを誇りに思います。 使う人が求める【品質】はその人の【品格】を映し出しているようにも見えます。

思い入れの深い鞄をご要望であれば何十年先「修理が出来る」仕様を考え抜きます。

鞄は旅をして、また豊岡に里帰りする。

使う人と職人の



2代目夫妻は今も鞄に向き合う日々。 自分で作ったものは修理し易く工夫してきた。

仕事の鞄は特に機能的で合れる方がどんなふうに使われる方がどんなふうに使われる方がどんなふうに使われるのか、何にお困りでオーダーされるのか、何にお困りでオーダーされるのか、などオーダーされるのか、などないの何十年先までを考えて次の何十年先までを考えて次の何十年先までを考えてかの変わらぬスタイルです。

そして、その鞄を作った職 使っている人の思い入れが 使っている人の思い入れが やには生まれます。だから こそ解いて直せるように、 たる時から使い込んだ未来 で見て鞄を生み出します。 やははぐして部品を並べていくと、持ち主がどんなふうに使っていたかが分かるんです。 あぁ激しくぶつけちゃったんだな。とか、左利きの人がんだな。とか、左利きの人がんだな。とか、なが、たりであるの人が



70代の方から「父の形見を修理して欲しい」とご依頼。 行李鞄も立派に復元されました。大変喜んでいただき、 お孫さんに継いでいくとおっしゃっていました。



1970年代に2代目が作ったワールドホッパー式鞄。 お父様から譲り受けたとのことで修理に帰ってきました。

豊岡の鞄産業と共に 技術を磨いたマスミ鞄囊の歩み

明治という大きな時代変化の渦中、人々の運搬・移動に「鞄」が求められる時代となった。1881 (明治14) 年に行李鞄が考案されてから次々と進化した行李鞄が開発される。その中、革付属品を作っていたメーカーが「新型鞄」として鍵前の付いた漆塗りの行李鞄を創作した。豊岡が鞄として売り出した最初のものと言われている。



漆塗りの行李鞄



創業者 植村賢輔

その「新型鞄」を創作した奥田平治の片腕として 尽力したのが植村賢輔である。賢輔は鞄生産の 未来に自信を持ち、まもなく皮革製品に着目し た豊岡で初の【箱型鞄】製造を始めた。これがマスミ鞄嚢の始まりである。



東京オリンピック聖火ケースと 海外渡航用鞄のラインテックス

VIA-1-71-3

1950年代は新素材・新技 術の幕開けとなった。スマートケースに続き、海外渡航 用鞄としてラインテックス の製造依頼が急増した。諸 官庁や大学、企業などの海

外渡航が増えたからだ。



50年前のパンフレット

1960年代からは「マスミライン」というオリジナルデザインの海外渡航鞄も販売を始め、ツアーコンダクターや海外出張者に広く愛用された。海外への輸出も盛んになり当時のパンフレットは英語表記となっている。国内外からも特殊用途の鞄製造の依頼は絶え間なくあり、社内の鞄職人の腕を磨きあげている。





兵庫県豊岡市は、千年を越える伝統をもつ鞄の産地です。西暦27年から杞柳細工の物語は始まり、奈良時代には豊岡で作られた「柳筥」が正倉院に上納されています。15世紀の豊岡では「九日市場」が開かれ柳行李が盛んに売買され、その後江戸時代・明治・大正・昭和と各時代で人々の生活に溶け込んで柳製品は愛用されてきました。



明治14年頃 (1881年) 第2回内国勧業博覧会に 3本革バンド締めの「行李鞄」を出品したこと が鞄産業の始まりと伝えられています。 大正時代以降、全国に柳行李で 知られていた流通経路を基盤に、

新素材への挑戦とミシン縫製技術の導入により

日本有数の鞄の産地となりました。



Ⅲ マスミ鞄嚢株式会社

代表取締役社長: 植村 賢仁

加入団体: 日本鞄協会

兵庫県鞄工業組合

〒668-0046 兵庫県豊岡市立野町5番1号 TEL 0796-22-2505 FAX 0796-22-1094 http://masumikaban-shop.com(鞄部門) http://arumi-masumi.com(アルミケース部門) Email:masumikk@mxa.nkansai.ne.jp